

NPO法人社会還元センターグループわ会報
情報ギャラリー
 第28号

情報ギャラリー第28号
 発行日 2004年10月29日
 編集 グループ“わ”広報部
 発行者 赤司 松美
 発行元 NPO法人社会還元センターグループわ
 TEL(078)743-8101 FAX(078)743-8103
 Eメール group-wa@wa-net.jp
 ホームページ http://www.wa-net.jp



小さな池に託す大きな夢



ゼロから始めたビオトープ作り

こうべ環境未来館

企画運営担当 生3-垂 中島 洋吉

こうべ環境未来館企画運営委託業務の中に、ビオトープの整備・維持管理・観察会に関する業務という項目がありました。4月30日の企画運営業務委託団体審査会の席で、我々と一緒に審査を受けられたNPO法人はビオトープについては全く知識がない、これから勉強して取り組みたいと説明があり、これに対してグループわは、環境部会でしあわせの村ビオトープの維持管理を手がけており、またビオトープに関わっている会員もたくさんい

ることを説明して、これで業務委託を受けるのに、少しは有利になったなと感じました。

業務委託先がグループわに決定して、ビオトープづくりについて行政側と相談した結果、ビオトープ講座形式で一般市民から受講者を募り勉強をしながら、市民の手づくりのビオトープを造ろうと決定し『みんなで作ろう、みんなのビオトープ!!みんなと一緒にビオトープづくりを実践し、豊かな自然を再生しよう!』というキャッチフレ

ーズで、今年度は6月19日、7月10日・25日、8月8日・28日、9月12日、10月9日、11月13日に実施する連続講座(途中からの参加可)として受講生を募集し、ビオトープづくりが始まりました。

第1回の講座には、46名の参加者があり、活動事例発表などでビオトープの勉強をした後、これから造るビオトープのコンセプト
 市民と行政による長期的視点での手づくりのビオトープ
 リユース・リサイクルによるビオトープ
 市民が楽しみ生き物に触れ合える場の提供
 地域の動植物、出所のはっきりした生き物の移入
 次ページに続く

環境功労賞受賞

グループわはこのたび多年にわたる里山やビオトープなどの保全活動や地域における環境学習活動に積極的に取り組み地域の環境保全の向上に貢献したなどの事績を認められ、神戸市環境功労賞を受賞することになり、10月16日(土)、午後1時からしあわせの村研修館ホールで開かれた表彰式で赤司松美グループわ代表が矢田立郎神戸市長から賞状と副賞を授与された。

また個人として生環4期の西田金重さんが多年にわたるケナフ栽培を通じて環境保全教育に貢献した実績を顕彰されて同じく神戸市環境功労賞を受賞した。



市長から賞状を受ける代表



賞状と副賞



前ページより続く

雨水利用や自然エネルギー（太陽光・風力）を活用した環境にやさしいビオトープ

の5項目を確認して、これからつくる場所を観察した上で6グループに分かれて、ビオトープのデザインを競い、子どもを含むチームのアイデアが投票より採用決定し、更に参加者全員の思いを加えたものを最終デザインとして広場に白線引きをし、鍬入れを行って第1回の講座を終了しました。

とても人力だけで白線内の土を掘り出すことは不可能と考え、赤司代表に次回までの間に油圧ショベルによる荒掘りをお願いしました。

2回目は35名の人々が参加、雨が降ったり止んだりの天候の中で、荒掘りしてあったところに、三ツ星ベルトの人の指導で、ゴムシートが張れる状態に仕上げる「のり面」作りやビオトープの形状作りに、硬化剤のセメントや岩石の入った硬い土と、汗と雨にびしょ濡れになりながら格闘して、ゴムシートが張れるところまで形を整えることが出来ました。最初はとても無理だと思っていましたが、集団の力の凄さを見せ付けられた一日でした。

第3回目は子ども15名を含む75名の人々が参加して、ビオトープの形状や底を整えた後、三ツ星ベルト提供のゴムシートを張り、ゴムシートの上を押部谷の農地から運んだ畑の土で覆いました。

猛烈な炎天下、皆でバケツリレーによる土運びや、石拾いなどをしたお陰でビオトープらしい原型が出現したときは、皆で拍手喝さいしました。人が力を合わせれば、

大抵のことは出来るのだとしひしと感じた一日でした。

第4回目もカンカン照りの中、40名の参加者があり、その中にはフランスからの留学生の姿もありました。この日は水循環用の水路、オーバーフロー水路の二つの水路作りと、枕木を利用した観察デッキと渡り橋作り、池の中に浅い所と深い所を作る土入れ作業と、ハードな作業を汗だくになりながら完了させて、池に始めて環境未来館の地下水槽に溜めてある雨水を注入しました。この日は作業している我々の上を何匹かのトンボが、あたかも棲家を偵察しているかのように飛んでいました。何年か先には、きょう作った水循環用水路にホタルが乱舞する姿を夢見ながら、立派なビオトープに育って行くことを願いながらハードな一日の作業を終えました。

第5回目は30名の参加で、前回作った水循環水路とオーバーフロー水路にゴムシートを張り、その上を土で覆い、水循環ポンプ駆動用の太陽光・風力発電設備の据付配線工事（ワット神戸の皆さんがボランティアで作業）を行った後、神戸層群の白っぽい土の上を、茶色の山土で覆う作業を総出で行い、すっかり見違えるようなビオトープに仕上がりました。事前に木津駅周辺の明石川上流から採集したガマと布施畑のため池から採集したヒシを池の中に移入し、また、当日藍那付近から採集して持参して下さったイヤコナギも池の周辺に移植。いよいよ周辺の仕上げをしながら、動植物の移入作業を行っていくところまで来ましたので、移入作業をスムーズに行うために、基本的な移



水循環ポンプ駆動用の太陽光・風力発電設備

入の制約事項と、完成後のビオトープの管理に付いて、作業でくたくたの体に鞭打って確認の学習を行って第5回講座を終えました。前回水を張っておいたビオトープには、既にヤゴやミズスマシ、ハイイロゲンゴロウ、マツモムシなどが確認でき、自然のすばらしさを皆で味わった一日でした。

第6回は34名が参加して、動植物の移入ルールの確認をした後、前もって下見をして、地域の人々の了解を得ておいた明石川支流や木津駅周辺のため池、雑木林などに出かけ、グループ毎の植物に詳しい人達の説明を受けながら、予定時間のオーバーも忘れて多くの和種の植物を採集して帰り、ビオトープの周辺に移植しました。動物の移入は急がず、しばらく自然のまま放置しておいて、状態の変化を記録しながらゆっくりペースで行っていきます。

第7回は台風の襲来で講座はお流れになりましたが、1~6回までに参加していただいた多くの人々の汗と労力に加え、講座と講座の間で何回も臨時的作業をして頂いた、グループ毎の本部の皆さんのお陰で立派なビオトープに完成しつつあります。全く何もなかった更地に、本職の造園家が作れば簡単に出来たかもしれませんが、素人の市民が手づくりのビオトープを作った、ということに大きな意義があり、このビオトープが、これからビオトープを作りたい人や、ビオトープを勉強したい子どもたちに利用してもらえる場として、造成の記録や動植物の移入記録、講座で配布した資料などを整備し、ビオトープに関する図書も増やして、神戸のビオトープの拠点になるよう進めてゆきます。愛好会の結成も考えています。皆さんもぜひ一度見に来てください。

第2回音楽療法講座

♪ 主催側として ♪

行動へ移してこそ

国6-本 黒田 宏

昨年に続きことしも音楽療法講座を開催することになり、9月6、13、21日の3日間にわたってKSC音楽教室で実施した。ことしは助成金を受ける条件として一般市民からの参加が必要となり、一般市民20名、在校生7名、グループわ会員29名、合計56名の受講者があった。

第1回のときもそうであったが、今回も音楽療法に対する関心が非常に高く、受講者の熱意を感じた。例えば受講理由として「音楽は癒しの基本的手段」と記載した人もあった。ほとんどの受講者はすでに各施設でボランティア活動を行っており、自分達の活動をさらにレベル・アップする目的で音楽療法について学び今後活かすためと考えられる。初日の前半は緊張気味であったが、ワークとロールプレーでは全員が楽しくまた真剣に取り組んでいた。

アンケートでは「この講座が施設と言う特定の場所において音楽による対象者との関わり方だけでなく、例えば家庭内における子どもとの接し方、夫婦間の会話にも役立つ」と述べている参加者もいた。確かに「受容」、「同質の原理」と言う基本はまさにこれを表しているものと思う。また多くの受講者からこの

講座を今後も続けて欲しいと言う要望があった。

受講者の中からは、講師が実際にしあわせの村内で音楽療法を行なっている施設の見学をしたいという申し込みがあり、その熱心さが伝わってくる。ある病院で通訳ボランティアを行なっているグループの標語に“Love is service translated into action.”と言うのがあった。まさに学ぶだけでなく、行動に移すことが本当の支援であり愛であると思う。カレッジの卒業生で「百言は一行に如かず」と言った方がおられたとのこと。

受講者の皆さんの今後のご活躍を祈願しています。



♪ 受講者として ♪

音楽はバリアフリーの共通語

生1-環 小島 哲

第1回講座には人気の枠に押し出されて落選、2度目の今回はぜひとも、の思いを込めて応募理由に知恵を絞った。次のコメントだ：

「音楽こそバリアフリーの共通語。『癒し』のキーワードになる力であり、心の栄養素、サプリメントです。ボランティアを含む人間関係の構築には欠かせない要素だと思います」

9月、しあわせの村に關係する音楽療法士3名



鳴子を鳴らして健康体操



リズムカルにお餅付き

から子ども、成人、高齢者を対象にした3講座それぞれの音楽セラピーの理論と実践について、有意義かつ楽しく学習。応募理由に挙げた仮説？を予期以上の実りに結びつけることができ、企画・運営関係者と各先生に感謝している。

わの友愛訪問活動が開講のきっかけとなり、目的はボランティア活動のレベル・アップと言う。TVや新聞・雑誌に音楽療法の話が登場することが多くなった。その内容は専門家への道筋を示すものか、一般的な知識を情報として提供するものかに偏っているように思う。その点、今回の講座のあり方は実践活動に重きを置いた、直ちにス

キル・アップに繋がる有意義なものである。

音楽療法は「ひと」と「ひと」の間にある人間らしい観点から、高齢者、障害者(児)、子ども、健常者、さらには教育や民族の違いなど、障壁を少しでも低くする上で、また癒しのエネルギー源として音楽に光を当てている。今後ますます注目される領域であり、理論的にも各種データを積み重ねての充実が予想される。

主催のわには、ホップ・ステップ・ジャンプの第3回音楽療法講座の開催が、どのような内容で実施されるか、大いに楽しみにし、期待している。

福祉部会

真愛ホーム 福祉部員は定例活動である親愛ホームの入浴後の整容、クッキーの会は手作りクッキー持参での施設への友愛訪問、みくら作業所の子供たちとカレッジの料理教室で型ぬきクッキーを作りました。➤



親愛ホームでの夏祭りの介助風景

➤ 他部の方々もあちらこちらでボランティアをしていると思いますがどうか福祉部の方へもお声をかけて下さい。

ダンスパーティー

10月は定例活動以外に婦人会館で視覚障害者との第2回ダンスパーティーのボランティアがあります。主に社交ダンス部の方々に協力をお願いします。

いかり共同作業所 新たにいかり共同作業所(兵庫区西出町2-4-4)で毎月曜日、40食くらいの昼食を作りのボランティア(献立、材料調達は作業所がする)の依頼がありました。2名を一組として8名でローテーションを組んだらうまくいくかな。これも協力が頼りですのでよろしく願い申し上げます。

➤ たまも園 料理、パソコン、山歩き、プール、夏祭りなどのボランティア、滝谷ホーム宿直ボランティア等等本当にご苦労様です。我々自身が年老いていく中でのボランティアなので福祉部だけの協力では大変難しくなっています。➤

村内施設との交流会 昨年9月に行ったしあわせの村の施設の方々との交流会はこちらからの出前訪問と言うことで文化部の協力を得る試みで行うことにし、夏のうちに井上理事、芝野文化部長と3人で各施設をまわりました。

クッキーの会 森岡さんは10月は竹炭入りのクッキーを焼いてみるということですので評判を聞いてみることにします。

ひょうご子ども家庭福祉団応援バザー 10月29~30日、三宮勤労会館にあります。準備は10月28日、値札つけ10月20~27日。多くの手がいり、福祉部だけでは無理なのでいろいろな機会を協力をお願いします。

11月の福祉部会 11月19日(金)です。(福祉部会長 芦原 耐子)

環境部会

表彰を受けました

平成16年9月8日(水)、神戸文化ホールにおいて開催された平成16年度神戸市社会福祉大会において私たち「神戸市立神出自然教育園支援グループ・五園会」が奉仕活動団体の部で「神戸市社会福祉協議会理事長感謝状」と「表彰盾」を受賞しましたのでご報告させていただきます。

五園会はシルバーカレッジ第5期園芸コースの卒業生のボランティア・グループです。活動はカレッジ在学中から行っておりまして。

在学中は30名のメンバーが大部分参加しておりましたが、卒業後は18名の登録となり、活動してまいりました。

卒業後3年も過ぎた最近では体調面で参加が無理などで7、8名前後に減少してまいりました。

年間を通じての活動ですが真夏の炎天下の作業、真冬の北風の吹く中での作業と大変さもありますが、これからもメンバーの揃う限り、体力・体調の続く限り、この活動を続けて行こうとはなしあっているところです。

(五園会世話役 田中 剛)



感謝状、表彰盾を前に五園会の皆さん(中央が田中世話役)

親子で集まれ自然遊び塾

《里山で遊ぼう》イベントを支援

環境部会では来る11月6日(土)、「親子で集まれ自然遊び塾・里山で遊ぼう」のイベントの支援活動準備を里山グループを中心にはじめました。

今回は外国人の親子の参加も呼びかけていま

す。多勢のご参加をお待ちしています。問合せ先グループ わ 事務局まで。



親子で集まれ自然塾の夏

《昆虫をさがして標本をつくろう》実施報告

生3環・ピオトープグループ 坪井 幸子

夏休みも終了間近い8月28日(土)、昨年同様、兵庫県立人と自然の博物館の大谷 剛先生を迎えてしあわせの村研修館とピオトープを中心に標記の自然あそび塾が開かれました。

ことしはベトナムの3家族も含め、予定数を大きく上回る30家族(子供59人,大人36人)が、手に手に虫かご・捕虫網を持参して大会議室も超満員の参加者にスタッフも20余名で対応しました。

最近の風潮として昆虫採集を非難し「虫を殺す標本づくりはもってのほか」という声が聞かれますが、子供時代に自然に接し、昆虫を識ることで生物の命の貴さも学べる「昆虫採集・標本作り」にするため大谷先生のお話を聞き「必要以上に採らない」と、6班に分かれて採集コースに出かけました。

暑すぎた夏はチョウの成長に悪く、極端に数が少ない年でしたが、この日さらに台風の余波で風が出て大型のアゲハチョウなどほとんど姿を見せません。それでも草原に多いバッタ類、水辺に多いトンボ類、樹木に多い甲虫などに歓声を上げて協力し合う親子連れ、誘導するスタッフで賑わいました。

実は前々日から昆虫集めの餌付けを施しておきましたが、魚肉・ミンチ肉を入れたトラップは猫

に荒らされていたし、いちぢく・バナナを酒や黒砂糖で練った釣り餌は風で乾き過ぎたり、効果がなさそうでしたが、1時間ほど駆け回って満足のいく昆虫採集ができたようでした。

またこの日の特別イベントで、ピオトープ内に落ち葉ンクと称する堆肥作りコーナーがありますが、この中で昆虫の幼虫が育ち、ゴミムシなどの昆虫が住んでいるところを子供達に見せる予定でした。

スタッフが大きなブルーシートを敷いて、朽ち木混じりの堆肥をスコップで掘り出し始めると子供達も眼を輝かせて、余り見られない昆虫や幼虫を取り出しては、先生やスタッフに名前を聞いたりする内にカブトムシの3齢の幼虫と教えられると、家に持ち帰って飼育したいと親子で飼育方法をたづねるなど、想像以上の反響がありました。

せせらぎ付近の緑陰でお弁当をすませて研修館に戻った皆は、室内に展示された多くの昆虫の標本にくぎづけになりました。この立派な標本箱は、ピオトープグループの松本さんが25年前に作成された標本の一部ということで、現在、希少昆虫と報じられる昆虫にもお目にかかることができました。

先生も、捕まえた昆虫を苦しませて死なせて捨ててしまうより、感謝の

気持ちで標本に仕上げても自分の宝にしなさい、ということで標本作りが始まりました。

説明どおり親子で取り組める父親もいましたが、母親の場合は子供もギブアップしてしまい、手伝うスタッフも慣れない標本作りを体験しました。標本が完成した子供達から順番に昆虫名の確認が始まり、手元の図鑑になればスタッフにたずね、さらに先生へたずねた結果、この日の標本に仕上げられた昆虫の種類は約60種類にもなったということがわかりま

した。

ことしの自然塾は(外国人の親子も参加し日本の自然を知る)ですが、3家族の子供達は日本育ちか皆と一日を楽しんでいましたが、母親達にベトナムの昆虫事情とか感想を聞けばよかったと思いました。

ピオトープグループとしての自然塾参加は4回目。年々盛会となって、ことしは里山グループにご協力いただきましたが、わの皆さんにもピオトープ活動に参加いただけたらと願っております。

別刷り入ってます

KSCうたごえ大祭典、太陽光発電、会員相互扶助についての詳しい説明とお願いもお見逃しなきよう。

編集後記

阪神淡路大震災からやがて10年を迎えようとするとき起こった新潟中越地震の惨状は水害とのダブルパンチで、現地の方の気持ちを思うと堪らない。NHKの教育チャンネルとFMラジオが「xxさんからxxさんへ、心配してます。連絡ください」というメッセージを延々と流した。疑問が二つ、三つ。

自分の名前がいつ出るかわからないこの放送をずっと見続けるだけの余裕が被災地の人にあるのだろうか。

「連絡ください」と呼び掛けている人は被災した人に(連絡という)オネダリをしているという

自覚を持たないのだろうか。「被災地の人、私の心配を取り除いて」とも聞こえて仕方がなかった。心配なら行けよ。

呼び掛ける方も掛けられる方も他府県なのになぜ神戸のローカル局にも流すのだろうか。もしやNHKのパフォーマンス?

わのホームページの各部・地区別活動記録を見ると情ぎゃらに掲載しているのは実際に行われている活動のほんの一部でしかないことが分り、無力感に襲われる。活動は毎日なのに情ぎゃらの発行は3ヶ月なのが疎になる一因でもある。どうか皆さまの投稿で編集子のシリを引っ叩いて頂きたい。(サン)

文化部会

☆活動実績

文化部会では24のボランティアグループが毎月活発な活動を続けています。その活動実績は、グループのホームページの「各部・地区別活動記録」のページをご覧ください。

☆今後の活動予定

(1) フルーツフラワーパークでの行事協賛活動

10月31日(日)、日本人および外国人の親子を集めて、日本の伝統的な昔あそびを伝えるイベントに文化部会が協力して、次の5グループ約70名が参加します。

- 折り紙・折染めグループ
- 手芸グループ
- なでしこ
- マジックグループ
- 昔あそび研究会

(2) グループまたは個人による毎月の活動

年内の予定は次の通りです。

シルバーハイツひよどり台(北区)への友愛訪問

11月10日(水)、

- コーロKSC(歌唱)
- 楽遊クラブ銀雅(銭太鼓)

12月1日(月)

- SCハワイアンズ(ハワイアンバンドとフラダンス)

しあわせの村保養センターひよどり(北区)へのグリーンスクール講師

11月12日(金)

- 民芸細工 むかしあそび研究会：淡路忠義 他

12月10日(金)

- 手芸
手芸グループ：岸一恵 他

いきがい部会

フルーツ・フラワーパーク 盛り上げに協力

神戸市立フルーツ・フラワーパーク隆盛化への協力活動の一環として10月10日(日)、いきがい部会と本部スタッフがニュースポーツの紹介・体験アトラクションを行った。ホテル棟ホールではシャッフルボード、バンパー・プール、ダーツの3種、ホテルの前庭ではスカイクロス、多目的広場ではペタンクとグラウンド・ゴルフを展開し、記帳した利用者の総数は1000人を超えた。

本部 国際部会

第10回学園祭 売り上げに協力

10月16日(土)、第10回KSC学園祭が行われ、グループは食文8期の方々が主体で“カレー屋さん”を出店。隣は今回で4回目になるNGOベトナム in KOBEがベトナム食品や揚げ立て春巻きとベトナム・コーヒーを販売、出店申込みや設営、販売に国際部会員が裏方としてNGOの収益増に協力した。

☆ガイド・ボラ募集

有馬ガイドグループでは、有馬温泉総合案内所前で道案内等のガイドボランティアを募集しています。連絡は、横山(583-1200) 中川(582-2262)まで。



子らはすぐ夢中になるからやらせていても楽しい



カレー屋さん おいしい“わ”、開店早々から行列



出店4年目のガさん(左)、手際もなれたもので春巻きは売

東灘区会

こんなボランティア 浴衣の着つけ

ふれあい喫茶の支援に行っているロングステージK O B E岡本から"浴衣の着つけ"の依頼がありました。地域の盆踊り大会に車椅子介護で参加する若いスタッフの方達の着つけです。

考えてみると私達も何年も浴衣など袖を通していません。タンスの奥から浴衣と帯を出して結び方の練習に集まりました。お互いがモデルになって帯の結び合いをし、何とかできるだろうと言うことになりました。

着る方も着せる方も嬉しそう



当日10何名かのスタッフに着つけをしました。日頃のユニホーム姿とは打って変わってほんとうに日本人らしく美しく、そして嬉しそうにゲスト(このホームでは入居者の方をこう呼んでいます)の車椅子介護をして盆踊り会場へ参加されていました。

「こういうボランティアもあるのだなあ」。私達のほんの小さなことが人さまにお役に立っていると言うことを実感しました。ご一緒に参加していただいた4名の方、ありがとうございます。

(音5-東 藤井 潤子)



銭太鼓だけでなく正座の仕方も身に付けている

3年続いている 子らに銭太鼓の指導

ことしで3年目になる銭太鼓の指導。六甲道児童館の子ども達が年2回の行事(敬老会とクリスマス会)に出演するために教えに行っています。1回が4日間ぐらいで、週一程度です。

文化部の銭太鼓、楽遊クラブ銀雅のメンバー3名で指導しています。

子ども達の覚えの早いのには驚きます。音楽が流れている日常生活の中で音感がよいのでしょうか。このメロディーにはこの“振り”としっかりと短期間に覚えてしまいます。

今回は小学2年生~5年生まで15名を指導しました。

始めたとき3年生の子どもが5年生になっていて、下級生に一生懸命教えている姿がとても微笑ましく思われました。

練習が終わった後に「先生、分からへんことあるねん、教えてえ」と言ってくれる子どももあり可愛いですよ。

子どもたちの嬉々とした表情を見ますとずっと続けたいのですが新しい曲を考える銀雅の会長さんは大変です。お二人ともご苦労様でございました。

(音5-東 藤井 潤子)

中央区会

神戸新空港 見学は来春に延期

来る11月中旬頃に予定していた神戸新空港の海上からの見学は丁度その時期に見学船「おおわだ」がドック入りするとの情報を神戸市より得ましたのでやむなく延期することに致しました。ご了承下さい。

今後の予定は来年春ごろを予定しており、旨くいけば空港島に上陸できるかも知れません。決まり次第改めてご連絡したいと存じます。

(中央区会長 杉野 好一)



北区会

北区ボランティア募集

パソコン指導(ワード、エクセルの指導... 初步)

対象: ワークホーム明友(しあわせの村内)の軽度の障害者(4~5人)

毎月第3水曜日 13時~15時
謝礼無し
駐車券あり

お年寄りの入浴後のお世話

対象: 神港園入居者のお年寄り(しあわせの村内)

毎週火曜日 13時~15時30分

謝礼有り
駐車券有り

どちらも現在継続実施中です、皆さん一緒にやってみませんか。

連絡先: 北区会長
淡路 忠義

兵庫区会 赤い羽根共同募金 はじまる

恒例の共同募金が10月1日から全国一斉に始まりました。

ことしも兵庫区役所からの協力依頼で、会員9名が台風一過の秋晴れの

午後、大勢の乗降客や買物客が行き交うJR兵庫駅南口で募金の呼びかけを行いました。

共同募金は誰にでもできる身近なボランティア活動です。まだお済でない方は是非ご協力を。(兵庫区パンジーの会)



募金を呼びかける会員



赤い羽根をわたす宮城さん(音文2)



募金を呼びかける吉岡さん(国際3)

グループわの行事計画 事務局から

- - 04年10月~05年3月 - -

(行事 / 予定日 / 場所)

昔あそび

04年10月31日(日)

フルーツフラワーパーク

里山で遊ぼう

04年11月6日(土)

シルバーカレッジ駐車場横

外国人への日本料理教室

04年11月6日(土)

シルバーカレッジ調理実習室

パソコン講座 ワードで年賀状を作ろう

04年11月15日(月)~19日(金)

シルバーカレッジ

ケナフから学ぼう地球温暖化 ケナフで紙すき

・クリスマスカードを作ろう

04年12月18日(土)

こうべ環境未来館

野鳥を観察して自然の大切さを学ぼう

05年1月30日(日)

こうべ環境未来館

炭焼き体験

05年3月4日(金)

シルバーカレッジ

昔あそび

05年3月4日(金)

シルバーカレッジ

パソコン講座 パソコン入門

05年3月29日(火)~4月1日(金)

シルバーカレッジ

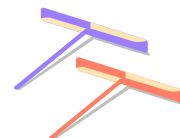
パソコン講座 デジカメ画像処理

05年4月4日(月)~4月8日(金)

シルバーカレッジ

皆さんの参加をお待ちしています。また知り合いの方にも教えてあげてください。

情報ぎゃらりー 次回発行予定 1月末 皆さんの投稿をお待ちしています。



作品でも受賞

10月5日(火)~同10日(日)の間県民ギャラリーで開かれた第6回兵庫県美術交流会・神戸展において江本 和嘉子さん(食文7)の作品、押絵「鞍馬の火祭り」(右)が神戸市長賞を受賞しました。



垂水区会

垂水歴史散歩

～福田川西域の神社仏閣(文化財)を訪ねて～

(企画担当:安部 浩三)

実施日時: 11月12日(金) M9:30～12:00頃。〔雨天の場合(午前6時50分頃のNHKテレビの天気予報で降雨確率40%以上)の場合は11月19日(金)に延期〕

集合場所: 名谷あじさい公園、山陽バス垂水駅東口～名谷駅線で「東名谷」下車。

名谷あじさい公園には無料駐車場があります。

行程: 西名若宮神社～方見堂～源平合戦供養碑～ドロクッサン(五輪塔)～明王寺～転法輪寺～大歳神社(道程約4km)解散、バス停「奥畑」あり。

案内人: 井上 堅氏(福祉8)

参加費用: ¥200(資料代、行事用保険代など) 当日徴収。

問合せ先:

安部(生環8)

&F 751-4857

研修見学会

～阪神・淡路大震災を忘れず、防災に生かしましょう!～

(企画担当:水澤 明)

実施日時: 12月10日(金) AM10:00～12:30頃(約2時間半観覧)。

集合場所: 人と防災未来センターのロビーに10時まで集合。時間厳守。

アクセス: 鉄道: 阪神

西区会

西区会のみなさんへ

神出自然教育園支援ボランティア

西区会では地域におけるボランティア活動の中心事業として神出自然教育園で農園芸作業の支援活動を行っています。

園芸の好きな方もそうでない方もみんな一緒に和気あいあいに作業しています。

一人でも多くの皆さんの参加を待っています。

作業内容 草花の鉢上げ、植え替え、各種野菜の植え付け、土作り、畑の除草などのうちでき



神出自然教育園での農園芸作業

るだけ身体の負担にならない作業を受け持つようをお願いしています。

支援日 毎月第4火曜日午前10時～午後2時30分

連絡 参加しようと

思われる方は前日までに世話人または区会長までご連絡願います。

世話人 片濱 勝好

793-5716

区会長 松岡 泰彦

994-5239

ボランティアコースの会

西区会では会員相互の交流とボランティア活動の一端として、コースの会を作っています。時

には老人施設を訪問しています。

この会に入って初めてコースを始めた方が半数ほどいますが楽しく歌の練習をしています。皆



西区永栄園での演奏会。好評で再訪を求められた。

さんもご一緒にどうぞ。

練習日 原則として毎月第2・第4土曜日10時～12時 第4土曜日は先生(渡邊先生)の指導を受けています。

場所 主として学園西町4団地集会所。(地下鉄学園都市駅から西北に徒歩6～7分)

歌のレパートリー 童謡・唱歌を2部合唱で練習

問合せ

梶谷 道子

791-4172

神林 幹夫

991-6557

電鉄岩屋駅から南へ徒歩約8分、JR灘駅南口から徒歩約10分。

参加費用: ¥500(両館の入館料、行事用保険など) 当日徴収。

その他: 見学当日「緊急不参加」の際は下記に

電話連絡願います:

水澤 明

(携帯080-1434-8605)まで。

問合せ先:

水澤(生環7)

&F 781-0998

ボランティア大会

次のボランティア大会は平成17年1月中旬(日曜)を予定しています。



垂水区花 ゼラニウム

会員の皆さまにお願い

神戸市シルバーカレッジ8期生—生活環境コースの The-Sun-Shine チームがグループ学習テーマ「進む新エネルギー太陽光発電の現状・将来・そして提案」の中で、地球にやさしい無尽蔵のエネルギー「太陽光発電設備」の設置を提言し、その実現に向けて、神戸市シルバーカレッジの理解を得て、(財)ひょうご環境創造協会の平成16年度太陽光発電設備補助金制度の応募に申請し、審査の結果認可をいただきました。

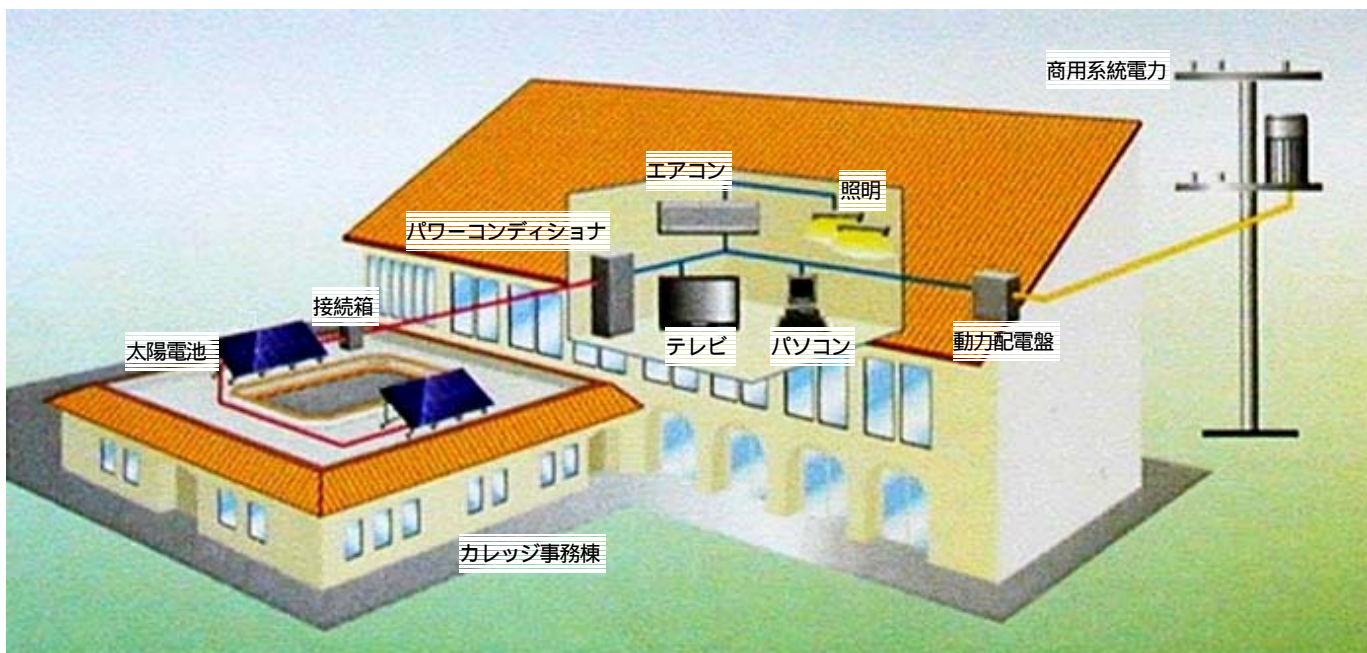
この設置費用総額約600万円の87.5%は独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、兵庫県、(財)ひょうご環境創造協会グリーンエネルギー基金で賄われ、設置費用の残り12.5%(75万円)を基金募集として、神戸市シルバーカレッジ現役学生、事務局、諸先生、および卒業生で組織されているグループわ・八生会・他で活躍されている諸先輩、その他関係先の皆さんに広く呼びかけて基金のお願いをしております。ついてはこの趣旨にご理解を賜り、ご芳志を同封の振込用紙を使ってお送り下さるようお願い申し上げます。

神戸市シルバーカレッジのねらい「再び学んで他のために」の目標が実を結び、学んだ母校の施設として生かされることは他で活躍されている先輩諸氏や在校生の皆さんの今後の目標と励みになればよいと、考えております。

< 設備の概要 >

太陽光発電 仮称名	KSC The Sun-Shine 発電所
最大出力容量	5.4 KW (年間推定発電量 約6,000 Kwh)
発電システム	独立電源システム(発電電力は、神戸市シルバーカレッジの消費電力の一部となります)
設置場所	神戸市シルバーカレッジ事務局の屋上
付帯設備	発電表示板・発電設置システムの表示板 ・基金拠出者の銘板

設置工事完了予定：平成16年12月末日



完成予想図